

IDL 8.6 リリースノート

Note

最新の情報に関しては、下記のリンクを参照してください。

<http://www.harrisgeospatial.com/ProductsandSolutions/GeospatialProducts/IDL.aspx>

これらリリースノートは次の項目に分かれています。

- IDL8.6 のサポートプラットフォーム
- IDL8.6 の新機能
- IDL8.6 の下位互換性の問題
- IDL8.6 の既知の問題
- IDL8.6 で修正された問題

IDL8.6 のサポートプラットフォーム

IDL8.6 のサポートプラットフォームを以下の表に示します。

これからソフトウェアをインストールするマシンが以下の条件を満たすかどうか、必ずご確認ください。また、ライセンス認証にはネットワークカード (NIC もしくは Ethernet) が必要になります。

プラットフォーム	ハードウェア	オペレーティングシステム	サポートバージョン b
Windows	Intel / AMD 64-bit a	Windows	8, 10
Macintosh	Intel 64-bit	OS X	10.10, 10.11 c
UNIX	Intel / AMD 64-bit	Linux	Kernel 2.6.32 glibc 2.12

a: IDL8.5 より Windows は 64-bit OS のみのサポートとなります。32bit モードの IDL を起動する場合は、「ENVI5.4/IDL8.6 インストールガイド」の「Windows 版 ENVI/IDL の起動方法」をご確認ください。

b: サポートされているバージョンは、当該バージョンで IDL が構築されているか (表中の最低バージョン)、またはテスト済みであることを示しています。表に記載されたバージョンとバイナリ互換があるバージョンであれば、IDL のインストールと実行が可能です。

す。

- c: Macintosh 版のインストールには、Apple X11 X-window マネージャが必要となります。X11 がインストールされていない場合は、XQuartz よりインストールを行ってください。XQuartz2.7.11 にて動作確認をしております。

その他：

搭載されているグラフィックボードのドライバを最新にアップデートすることを推奨します。IDL ヘルプシステムは HTML5 対応ブラウザを必要とします。

IDL8.6 の新機能

IDL8.6 の新機能については IDL ヘルプの「What's New in this Release」という項目をご参照ください。

IDL8.6 の下位互換性の問題

全プラットフォーム対象

ID	解 説
n/a	更新の自動チェック
IDL 8.6:	デフォルトでは IDL は 7 日おきに起動時に自動更新チェックします。新しいバージョンが利用可能な場合、IDL はコンソールに情報を出力します。IDL_UPDATA_CHECK 環境設定を使用するか、IDL ワークベンチの環境設定ダイアログを使用してこの機能の有効/無効を切替えられます。
n/a	新ライセンス
IDL 8.6:	IDL ライセンスは現在 Flexera Software によって管理されています。Flexera でホストされているポータルからライセンスを取得した後、ライセンスサーバまたは個々のノードロックマシンでライセンスを認証できます。IDL のライセンスに関する詳細は IDL インストールのヘルプトピックに記載されています。
n/a	MacOS DYLD_LIBRARY_PATH
IDL 8.6:	最近の MacOS ではユーザが DYLD_LIBRARY_PATH を変更することができません。そのため、Python Bridge では、DYLD_LIBRARY_PATH を設定する必要がなくなりました (IDL-69603 参照)。IDL 実行上で問題を回避するには、bashrc または cshrc シェルスクリプトから DYLD_LIBRARY_PATH 設定を削除する必要があります。
n/a	グラフィックフォント改善
IDL 8.6:	グラフィック関数はデフォルトで DejaVuSans フォントを使用するようになりました。

<p>た。これにより、プロットやヴィジュアルの見栄えの良いテキストが作成されます。必要に応じて、FONT_NAME プロパティを使用してデフォルトの”Helvetica”フォントに戻すことができます。</p>	
n/a	Python-to-IDL Bridge エラー処理
<p>IDL 8.6 : Python-to-IDL Bridge では、IDL コマンドで構文エラーまたはランタイムエラーが発生すると、ブリッジは IDLError を発生し Python スクリプトの実行を停止します。新しいエラー処理を利用するには、”idlpy”ライブラリを Python にインポートするときにモジュール全体をインポートする必要があります。</p> <p>例)</p> <pre>from idlpy import *</pre>	
n/a	Python Bridge データタイプの変換
<p>IDL 8.6 : IDL と Python の一貫性を高めるため、データ型変換の一部が変更されました。Python OrderedDict はキーの順序を保持するため、IDL Ordered Hash に変換されます。逆も同様です。IDL ストラクチャ (以前は Python の dicts に変換されていた) は Python の OrderedDict に変換され、ストラクチャタグの順序を保持します。</p>	
n/a	Solaris Sparc フィーチャサポート
<p>IDL 8.6 : Dataminer, DICOM Read/Write (IDLffDicomEx), IDLgrMPEG は Solaris Sparc ではサポートしません。</p>	
n/a	Solaris x86 フィーチャサポート
<p>IDL 8.6 : IDLgrMPEG は Solaris x86 ではサポートしません。</p>	
n/a	キーワードとしての _REF_EXTRA
<p>IDL 8.5.2 以前のバージョンでは、ルーチン呼び出す際に _REF_EXTRA をキーワードとして使用した場合、IDL は呼び出されたルーチンの _EXTRA ストラクチャに置きました。これは、実際にはキーワードが真のキーワードとして渡されないため、予期せぬ不正な動作につながります。IDL は、_REF_EXTRA をルーチンのキーワードとして検出するとコンパイル時に構文エラーを返します。コードを修正するにはサブルーチン呼び出す際に _EXTRA を使用して _ref_extra の値を渡す必要があります。</p> <p>例)</p> <pre>誤 Function MyRoutine, _REF_EXTRA=extra MySubroutine, _REF_EXTRA=extra End 正 Function MyRoutine, _REF_EXTRA=extra MySubroutine, _EXTRA=extra End</pre>	
n/a	!VERSION BUILD_DATE 変更
<p>IDL 8.5.2 より、!VERSION システム変数の BUILD_DATE フィールドがビルド ID を含むよう</p>	

<p>に変更されました。フィールド形式は”MMM DD YYYY(REVISION)”で、MMM は月の名前、DD は日付（10 未満は 10 の桁に空白）、YYYY は年、REVISION はビルド ID です。</p> <p>例) “Feb 29 2016(306707)”</p>	
n/a	IDL ワークスペース名の変更
<p>IDL8.5.1 より、IDL ワークベンチで使用される IDL ワークスペースの名前が IDLWorkspace85 から IDLWorkspace に変更されました。インストール後、ホームディレクトリに移動し、IDLWorkspace85 フォルダの名前を IDLWorkspace に変更する必要があります。</p>	
n/a	タイルキャッシュサイズ設定のデフォルト値の変更
<p>IDL_GR_TILECACHESIZE 設定のデフォルト値が 512MB から 0MB に変更されました。0 の値はタイルキャッシュサイズ “無制限” を示します。より多くのグラフィックタイルがキャッシュされるほどメモリ使用量は増加します。ユーザは IDL ワークベンチの環境設定ダイアログでこの設定を行えます。</p>	
n/a	Live Tools の廃止
<p>LiveTools 系ルーチンは廃止されました。IDL6.2 の頃よりすでに旧式となっていたルーチンを使用しているコードをお持ちの場合は、次リリース前に移行作業を行う必要があります。</p>	
n/a	IDL8.3 以降にて作成された SAVE ファイルは以前のバージョンの IDL でリストアできない
<p>IDL8.3 より新しいコロソ演算子が追加されたことにより、IDL SAVE ファイルのリビジョンレベルが 11 から 12 へと変更されました。そのため、IDL8.3 以降のバージョンで作成された SAVE ファイルは以前のバージョンの IDL ではリストアできません。SAVE ファイルを IDL8.0、8.1、8.2 で使用するためには、このいずれかのバージョンの IDL を利用してください。</p>	
n/a	IDL のプリファレンス設定の移行について
<p>IDL のプリファレンス設定は自動的に新しいバージョンの環境へ移行されません。プリファレンスの移行は以下の方法で行ってください。</p> <p>ウィンドウ→設定から設定(Preference)ダイアログを表示し、設定するか PREF_SET ルーチンを使用し、設定してください。</p>	
n/a	PDF 形式での新規ドキュメント提供について
<p>IDL8.5 オンラインヘルプでは IDL のルーチンや関数、新しいグラフィックスルーチンや例文が含まれています。IDL のオンラインヘルプに含まれていない記事は、インストールパス配下の ¥help¥pdf に保存されている PDF ファイルに記載されています。</p>	

IDL8.6 の既知の問題

問題が起こった際は、リリースノートの既知の問題を参照してください。ID 番号はお客様からのお問い合わせに早急に対応できるよう記されています。

全プラットフォーム対象

ID	解 説
n/a	IDLffVideoWrite でアニメーション GIF が作成できない
	ffmpeg ライブラリ提供元の問題により、IDLffVideoWrite はアニメーション GIF ファイルを作成できません。WRITE_GIF ルーチンをご使用ください。
n/a	Windows のインストールで、“Key not Valid for use in specified state” のエラーが発生する
	<p>Windows において、稀にインストール中に上記のエラーが発生してインストールが失敗することがあります。これは Microsoft update の KB2918614 が全ての Windows インストーラに影響する可能性があることが原因です。</p> <p>回避策：この KB2918614 をアンインストールしてインストールを実施してください。アプリケーションのインストール後はこの Update を再インストールしても構いませんが、この Update 自体は他のインストールにも影響を及ぼす可能性があります。</p>
IDL-42545	DRAG_NOTIFY Callback ルーチンにエラーがあった場合、WIDGET_TREE Drop イベントは IDL をクラッシュさせる原因となる
	<p>カスタム DRAG_NOTIFY コールバックルーチンで(変数が定義されていないような)エラーが発生した場合、そのエラーが子プロセスのルーチンを止め、IDL はフリーズまたはクラッシュします。そして IDL はコーリング機能に戻ることができません。</p> <p>回避策：作成しているコードに CATCH statements を使用し、根本的なエラーを制御するようにしてください。詳細は"Responding to Drag Notifications (Callbacks)"のドキュメントを参照してください。</p>
IDL-55393	リンク、ショートカット、代替パスを介して開かれたファイルのブレイクポイント
	<p>IDL は常にパス内で検索されたファイルの最初のバージョンをコンパイルします。エディタ内でファイルを開き、ブレイクポイントを設定し、違うパスの同じファイル名のプログラムをコンパイルした場合、IDL は二つのファイルは同じだと仮定します。その結果、IDL は二つ目のファイルに設定されたブレイクポイントで停止しません。同じファイルへの代替パスは UNIX のリンク、Windows のショートカット、ドライバのマッピング、または UNC パスを介して構成されます。</p> <p>回避策：コンパイルしたファイルのフルパスとブレイクポイントを設定したファイルのパスが同じフルパスで設定されているかを確認してください。IDL ワークベンチのメニューまたはツールバーを使用しコンパイルを行った場合は、編集とデバッグに使用されているパスが同じかどうか確認してください。</p>
IDL-49236	開いているプロジェクト内でプロジェクトおよびディレクトリを削除するとワークベンチを終了する際にエクセプションエラーとなる

開いているプロジェクト内でプロジェクトファイルおよびディレクトリが削除された際(例えば、Windows Project Explorer から)、ワークベンチが実行中には警告メッセージが発生し、終了する際にエクセプションエラーが発生します。	
IDL-51318 IDL-51322	Formatter Preferences のキーワード、システム変数、クラス名は Source →Format コマンドでは無視される
キーワード、システム変数、構造体やクラス名がウィンドウ→設定→IDL→フォーマッタから設定できますが、コードがハイライト(選択)されているおよび Source→Format コマンドが選択されているときは設定が適用されません。	
IDL-58532	デフォルト UTF-8 エンコードは.pro ファイルの英語ではない文字で文字化けを起こす
IDL ワークベンチにインポートされると、英語ではない文字はシンボルに変換されます。インポートする.pro ファイルに英語ではない文字が入っていた場合、文字化けを起こしたファイルになります。 回避策: ファイルを開く前または開いているファイルを保存する前に、ファイルのエンコーディングをスペイン語とドイツ語は ISO-8859-1 へ、日本語は Shift-JIS へと変更してください。変更はファイル→プロパティを選択し、表示されたウィンドウのテキスト・ファイル・エンコードから行えます。 エンコーディングのプリファレンスの変更はウィンドウ→設定→一般→ワークスペースから行ってください。	
IDL-57214 IDL-58285 IDL-58839	GL ドライバ上で画像処理の操作をしていると IDL は (マッキントッシュとユニックス上で) クラッシュする
回避策: bin¥bin.<platform>にある gl_driver.so ファイルの名前を変更してください。たとえば、gl_driver.so を gl_driver.ba というように変更し、この回避策があなたのシステムに有効かどうか確認してください。	
IDL-60473	IDL がビジー状態の際に設定(Preference)を開くとワークベンチがハングする可能性がある
IDL がビジー状態の(長くかかるコマンドが実行された)際に設定(Preference)を変更しようとするとワークベンチがハングする可能性があります。	
IDL-63902	IDL_Java Bridge を使用すると、ワークベンチでは CLASSPATH のカレントディレクトリを無視する
回避策: CLASSPATH に明示的に示されているパスへ.class ファイルをコピーしてください。	

Macintosh プラットフォーム対象

ID	解 説
----	-----

IDL-60599	Macintosh OS 上では一度に一つのワークベンチのインスタンスしか実行できない
<p>ウィンドウ→設定→一般→Startup and Shutdown→Workspaces の Prompt for workspace on startup のチェックボックスにチェックが入っており、複数のワークスペースが利用可能な設定になっていても、一つのインスタンスしか実行できません。</p> <p>回避策：インストールディレクトリの idlde.darwin.x86_64.app/Contents/MacOS 配下にある init スクリプトからワークベンチを起動させてください。</p>	
IDL-64149	ウィジットインターフェースは、ドロップダウンリストで選択された場合、フォーカスを失う
<p>回避策：X11 のプリファレンス設定にて、Click-through Inactive Windows を有効に設定してください。</p>	
IDL-67319 IDL-67320	グラフィックスレンダリングはメモリとデバイスエラーの原因になる
<p>XQuartz バージョン 2.7.2 は IDL のグラフィックス作成時に、メモリとデバイスエラーの原因になります。IDL をインストールする際に、MacOS は XQuartz の最新バージョンをインストールするように促すことがあります。</p> <p>回避策：XQuartz の最新バージョンを使用してください。</p>	
IDL-68845	Macintosh 上で IDL ワークベンチを起動する際に、Java v1.6 のインストールを促すことがある
<p>Java v1.6 がインストールされていない Macintosh 上で、IDL ワークベンチを起動する際、MacOS は Java v1.6 をインストールするように促すことがあります。IDL が Java v1.7 を含んでいた場合でも、発生します。この問題の詳細については、以下の URL を参照してください： http://stackoverflow.com/questions/11919004/eclipse-4-2-mac-os-x-10-8-ml-and-java-6</p> <p>回避策：インストールを促された Java v1.6 をインストールしてください。ワークベンチは IDL がインストールされた際に一緒にインストールされる、Java v1.7 を引き続き使用します。その他の回避策としては、上記の URL で説明されているように、Frameworks 1.6 -> 1.7 というように、ソフトリンクを作成してください。</p>	

Windows プラットフォーム対象

ID	解説
IDL-27165	ファイル配列の最大 nFiles または最大 nBytes の DIALOG_PICKFILE の MULTIPLE キーワードの制限
<p>DIALOG_PICKFILE を使用して複数のファイルを開く際、OS の最大バッファは 32767 バイトです。</p>	
IDL-48454	WIDGET_TIMER はアプリケーションが次のイベントを送信されるま

	でフリーズする原因となる
<p>WIDGET_TIMER イベントは 10 のイベント後、エラーになります。このエラーは以下のような場合発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイマーイベントは次のタイマーが現タイマーの中にあるような設定で一続きにされます。そして、イベントハンドラの"work"セクションの前で実行されます。 ・タイマーイベントが実行している際に、次のタイマーが切れてしまった(例えば、計算が長い)場合に発生します。 <p>回避策: 全ての計算が終了してから、次のタイマーを設定するようにタイマーイベントをつなげてください。マシンスピードによりますが、スムーズに処理するために計算の実行にどのくらいかかるかを基本とし、次のタイマーを設定してください。例えば、次のタイマーを毎秒一度タイマーを実行することや、1.0(計算実行時間)、値がマイナスの場合は 0.0 と設定します。</p>	
IDL-49641	IDL がビジー状態またはブロックされている際、編集した変数の値を更新すると時間がかかる
<p>IDL がビジー状態の間(例えば、長くかかるコマンドが実行される、または widget アプリケーションにブロックされている)際、IDL ワークベンチの変数ウィンドウを使用して、変数の値を編集すると、変数が更新されていないように見えますが、新しい値は IDL がビジー状態ではなくなった際に表示されます。(ID 49604 の問題と関連があります。)</p>	
IDL-61842	Windows7 上で、グラフィックス使用時に予期しない動作をする可能性がある
<p>Windows7 でサポートされていないグラフィックスカードであることが原因の可能性がります。Microsoft のウェブサイトでサポートされているグラフィックスカードのリストを参照してください。グラフィックドライバをアップデートするか、ソフトウェアレンダリングを使用するように IDL グラフィックス環境設定を切替えることができます。</p>	
IDL-66357	マルチバイト文字を使用したディレクトリに IDL をインストールした場合、IDL ワークベンチが起動しない原因となる
<p>IDL をマルチバイト文字が入ったディレクトリへインストールした場合、idlde.ini ファイルへのパス名が正しく認識されない可能性があります。</p> <p>回避策 32bit 版 :</p> <p><install_dir>%IDL86%bin%bin.x86%idlde.ini ファイルの以下行のパス情報を編集ください。</p> <p>2 行目: <install_dir>%IDL86%bin%bin.x86%jre%bin</p> <p>14 行目: Dosgi.sharedConfiguration.area=<install_dir>%IDL86%bin%bin.x86%configuration</p> <p>回避策 64bit 版:</p> <p><install_dir>%IDL86%bin%bin.x86_64%idlde.ini ファイルの以下行のパス情報を編集ください。</p> <p>2 行目: <install_dir>%IDL86%bin%bin.x86_64%jre%bin</p> <p>14 行目:</p>	

Dosgi.sharedConfiguration.area=<install_dir>%IDL86%bin%bin.x86_64%configuration	
IDL-66363	COM_idl_connect.tlb を使用した C++プロジェクトの実行には%bin ディレクトリに実行スクリプトを配置する必要があります
COM_idl_connect.tlb を使用した C++のプロジェクトを作成した際、実行するためには.exe ファイルを install_dir%bin%bin.x86 または install_dir%bin%bin.x86_64 へ配置する必要があります。あるいは、PATH 環境変数に install パスを追加することでも実行できます。	

UNIX プラットフォーム対象

ID	解 説
IDL-14221 IDL-30564	Modal Widget から DIALOG_PRINTERSETUP を呼ぶことは IDL がハングする原因になる
DIALOG_PRINTERSETUP を Modal Widget で使用しないでください。現状、それ以外の回避策はまだ分かっておりません。	
IDL-41964	Linux のセキュリティが強化されている環境では IDL が実行できない
<p>最近の Linux の一部のバージョンは Linux Security Modules framework を使用し Linux カーネルで強制アクセスコントロールが実装されています。その様な環境で IDL を動作させるためには IDL バイナリのためにセキュリティの編集が必要です。</p> <p>回避策：</p> <p>SELinux を”disable”と設定するか、IDL が動作できるようにセキュリティを変更してください。詳細は Exelis VIS Support ウェブページの Tech Tip3092 を参照してください。</p> <p>Tech Tip3092 URL:</p> <p>http://www.exelisvis.com/Support/HelpArticlesDetail/TabId/219/ArtMID/900/ArticleID/3092/3092.aspx</p>	
IDL-43301	ツリーウィジットの左上部の端は配置できない
ツリーウィジットノードのドラッグ&ドロップが有効になった際、UNIX ツリーウィジットは左上部端を配置できる有効な場所だと認識しません。この場所は通常、始めの二つのノード(ラベルではありません)のアイコン上に持っていくことができます。マウスカーソルをアイコンの代わりにラベル上に動かし、始めの二つのノードに配置することができます。これはベンダー側の問題です。	
IDL-55427	IDL Dataminer は libstdc++5.0 が必須ライブラリである
<p>IDL Dataminer モジュールは、サードパーティのライブラリを使用していますが、そのライブラリは一部の最新の Linux システムにはデフォルトでインストールされていない可能性があります。</p> <p>IDL Dataminer を実行しようとした結果、以下のようなエラーが発生します。</p>	

<p>% DLM_LOAD: Error loading sharable executable.</p> <p>Symbol: IDL_Load, File =/rsi/qa/unix/idl71/bin/bin.linux.x86_64/idl_dataminer.so</p> <p>libstdc++.so.5: cannot open shared object file: No such file or directory</p> <p>% Execution halted at: \$MAIN\$</p> <p>ご使用のプラットフォームに適切な libstdc++ compatibility library をインストールください。</p>	
IDL-57381	64bit ライブラリのインストール
<p>RedHat では libXp の 64bit バージョンのパッケージが必要です。</p> <p>そのライブラリは RHEL や Fedora など Red Hat を基本とした Linux ではデフォルトでインストールされておりません。</p> <p>以下のコマンドで必要なライブラリを取得することが可能です。</p> <pre>yum install libXp.x86_64</pre>	
IDL-58106	Linux64bit 上で実行しているワークベンチでは DIALOG_PRINTERSETUP がクラッシュする
<p>ワークベンチから DIALOG_PRINTERSETUP を呼ぶことは 64 bit IDL がクラッシュする原因となります。</p> <p>回避策 : IDL のコマンドラインモードで DIALOG_PRINTERSETUP を呼び、プリンタを設定してください。プリンタを設定すると、その情報はホームディレクトリにキャッシュされます。プリントの IDL プログラムはワークベンチやコマンドラインということは関係なく適切に動作します。</p>	
IDL-58460	新しいグラフィックスは Linux の Ubuntu バージョンがクラッシュする原因となる
<p>最近の Ubuntu のバージョンおよびその他 Debian を基本とした Linux では Xerces に必要な libstdc++.so.6 ライブラリがインストールされません。ライブラリをダウンロードし、IDL のインストール先の /bin/bin.linux.x86 ディレクトリにインストールしてください。(64bit インストールでは、/bin/bin.linux.x86_64 ディレクトリへインストールしてください。)</p>	
IDL-59497	IDL グラフィックスは Linux 上でのソフトウェアレンダリングでエラーになる
<p>Linux マシン上でディスプレイがローカルおよび Xinerama が有効になっていない場合、ワークベンチの IDL グラフィックスはソフトウェアレンダリングモードでエラーが発生する可能性があります。</p> <p>回避策 : Xinerama を設定していただくか、IDL のコマンドラインを使用してください。</p>	
IDL-68960 IDL-68965	Java-IDL Bridge の Drawable Window はソフトウェアレンダリングでは、正しく表示されない可能性がある
<p>Java-IDL Bridge の Drawable Window はソフトウェアレンダリングでは、正しく表示されない可能性があり、問題となることがあります。現象としては、ウィンドウに何も描画されません。この問題は、IDL ドキュメント(IDLWindowExample.java and IDLgrWindowExample.java)</p>	

<p>の中にある、サンプルコードにも影響があります。</p> <p>回避策：Drawable Window に何も表示されない場合、Drawable Window のプロパティ (RENDERER)をハードウェアレンダリング(RENDERER を 0)へと変更してください。</p>	
IDL-69332	一部の Linux システムにてヘルプ設定の選択の際 IDL ワークベンチがクラッシュする可能性がある
<p>一部の Linux システムで Window > Preferences > Help を選択すると IDL ワークベンチがクラッシュする可能性があります。</p> <p>回避策：idlde.ini ファイルを開き-vmargs 行を探し、次行に以下の新しい行を追加します。</p> <p>-vmargs 行</p> <p>-Dorg.eclipse.swt.browser.DefaultType=Mozilla</p>	

IDL8.6 で修正された問題

ID	解説
IDL-69187	GRIB2 ファイルで GRIB_GET_VALUES を使用すると IDL がクラッシュする
IDL-68887	IDL のラッパーコードに入力変数と出力次元の不一致があり NCDF_VARGET が正しく動作しない
IDL-69346	IDL OpenSSL に脆弱性があった。OpenSSL ライブラリは 1.0.2h に、IDL コールライブラリは 7.49.1 にアップグレードされた。
IDL-69022, IDL-69451, IDL-69491	非アスキー文字によるサイズ、プロット記号の数、垂直/水平配置などプロットの凡例に関する様々な問題
IDL-69431	サポートされていない JPEG-LS 圧縮ファイル (1.2.840.10008.1.2.4.81) にアクセスすると IDLffDICOM がクラッシュする。サポートしていない旨をレポートし、クラッシュせずに返る
IDL-69476	NaN 値を QHULL プロシージャに渡すと IDL がクラッシュする
IDL-69479	倍精度データで POLAR_CONTOUR が動作しない
IDL-69485	ワークベンチが Java クラスパスを無視している
IDL-69493	オブジェクトのクリーンアップにより、数式のエラー状態がクリアされる
IDL-69501	Mac OS X 上の MAKE_RT が間違ったパスを使用している
IDL-69502	BUTTERWORTH 関数のメモリ使用量が多い

IDL-69506	Python-to-IDL ブリッジで IDL の Python オブジェクト外で CALL_FUNCTION および CALL_PROCEDURE を呼び出せない
IDL-69513	XQuartz 2.7.9 以前では、XQuartz の不具合により Direct Graphics のレンダリングが非常に遅い
IDL-69520	IDL TIMESTAMP および SYSTIME(ユリウス日)の秒の小数部が間違っている
IDL-69527	ユニコード文字によるコンテンツアシストにより、ワークベンチがフリーズすることがある
IDL-69535	構造体の配列で、LIST の TOARRAY メソッドが失敗する
IDL-69539	3つの要素配列で VECTOR が動作しない
IDL-69541	READ_CSV で、空のカラムでインデックスエラーが発生する
IDL-69548	READ_PNG で、一部の PNG イメージの読込に失敗する
IDL-69556	NaN 値により、PDF や EPS で保存された画像がグレースケールになる
IDL-69571	NCDF ファイルに属性を追加すると IDL がクラッシュすることがある
IDL-69583	SURFACE、PLOT3D、CONTOUR 関数で ZLOG プロパティが扱えない
IDL-69603	Mac OSX 10.11 (El Capitan) で IDL-to-Python ブリッジが動作しない
IDL-69605	MAP 関数で Polar Stereographic と FILL_COLOR プロパティを使用する際の表示に不具合がある
IDL-69614	MESH_VALIDATE ルーチンが、倍精度を浮動小数点にキャストしてしまう
IDL-69615	新しい Debian 系 Linux では、IDL を実行するために libXp が必要。Ubuntu16.04 のような Debian 系 Linux には libXp が付属しておらず、オンラインリポジトリにももはやこのパッケージは含まれていません。IDL は Linux 版に libXp を同梱しています
IDL-69643	List::ToArray の配列が 2 の 31 乗以上の要素で失敗する